

MEMBER COMPANY INTERVIEW

Vol. 4

シーズアスリートを支援してくださる法人会員は
一般企業にとどまりません。

未来を担う、子ども達や若者を育む
多くの学校法人も、心強い応援団です。

今回は、開校から83周年を数え、
幼稚園、高等学校、医療専門学校、
さらに令和6年度より小中一貫校を新設し
人間性を育む独自の「全人教育」で注目を集める
学校法人 博多学園の八尋太郎理事長に
お話を伺いました。

学校法人 博多学園

理事長

八尋 太郎

Profile

やひろ・たろう — 1964年、福岡市生まれ。1990年、(川崎製鉄)に入社。技術者としてキャリアを重ね、工場長を務める。2007年に副理事長兼校長、2008年に理事長兼校長、父の跡を継いで5代目理事長に就任。当時は定員割れで低迷していた博多高等学校の再興に着手。人間力形成に特化した独自の教育方針により校風を一新し、地域に信頼される人気校への刷新を果たす。

— 83年の長きにわたって心豊かな次世代を育ててこられた貴校のご支援に、あらためて感謝を申し上げます。シーズアスリートへのご支援のきっかけをお聞かせください。

きっかけは、親しくさせていただいている、学校法人 渡邊学園専門学校の渡邊理事長のご紹介でした。「パラアスリートを支援する素晴らしい仕組みがある」とシーズアスリートのお話を聴き、バラスポーツやゴールボールのことはほとんど知らなかったものの、目的に共感して支援させていただくことにしました。

その後、渡邊理事長を通じて北京2008前の壮行会で浦田理恵さんと話す機会があり、彼女の考え方や努力、人間性の素晴らしさに大変感銘を受けました。以来、シーズアスリートの皆さんに、年に一回、私どもの高校(博多高等学校／福岡市東区)で講演をお願いしています。

— 講演を聞いた、高校生の皆さんの反応はいかがですか？

高校生はまさに思春期の真っ只中で、背が低いとか、太っているとか、外見的なコンプレックスを抱きがちで、自分に無いものを求めてしまいます。他者をうらやむという思春期特有の悩みなのでしょう。しかし、堂々とした態度で語るシーズアスリートメンバーのお話を聴きながら、自分を振り返って「自分はいくらまでできるのではないか」と思うようです。次第に表情が引き締まり、瞳を輝かせ始めます。限られた条件下で努力を重ね、最大のパフォーマンスに向けて限界突破に挑戦する、パラアスリートの皆さんの姿から学ぶものは非常に大きい。安易な言い訳が通用しない世界で自己を高めていく姿の魅力を、講演を通じて感じ取っています。

講演後のゴールボール体験会も、大いに盛り上がります。私も最初は、視界が閉ざされた中で飛んでくるボールがとても怖かった。そうした状況で戦っていることを体感し、障がいの有無に関係なく体験できるゴールボールは素晴らしい競技だと感じました。生徒たちも、体験会が終わる頃にはメンバーの皆さんとすっかり心が打ち解けている。こうした機会は非常に教育的意義が高く、私学協会主催でも体験会を開催するようになりました。

— メンバーと関わる中で、八尋理事長はどんな印象をお感じになられていますか。

何より、メンバーの成長には目を見張る思いがします。かつて、シーズアスリートのメンバーになって間もない萩原

思春期の生徒が学ぶ パラアスリートの生き方



人々を幸せに導き 世界を一つにするリーダーを 育てるという「志」

紀佳さん（ゴールボール）にお会いしました。当時の彼女は先輩の陰に隠れて、小さな声でやっと挨拶するという印象でしたが、1年後に会った彼女は別人のようで、驚くほど人間的に成長していました。明るい表情で堂々と言葉を発し、態度も頼もしく、清々しい驚きを感じましたね。シーズアスリートには、人を成長させる〴〵何か、がある。教育という仕事に携わっているからこそ、直感的にそう感じます。本音を言えば、うちの新入職員をしばらくお預けしたいほどです。インターンシップのような形で、法人会員に向けた研修を企画していただければ、大きなメリットになると思います。

一確かに、法人会員の皆さんとの関わりも、より深くなりそうですね。ところで、貴校もまた一時期の低迷期から大転換を果たし、人気校としての信頼を構築された歴史があります。どのように改革を進められたのですか。私の中高生時代も、帰福して理事長に就任した頃も、博多高等学校は〴〵しゃんちゃんな生徒が集まる高校、という定評で、定員割れが続いていました。そこで私に課された命題は「定員確保」。まずは、本校に求められていることは何か考えました。そして、中学の先生方や保護者の方々から〴〵社会に出て役立つ基本的な人間力、が求められていると再確認しました。

入学希望者を増やすには、一般的に進学率向上や部活の活性化といった戦略を取ります。しかし、私は本校に求められている〴〵社会に出て役立つ基本的な人間力の形成、に特化した教育を進めることにしました。具体的には、五教科以前の道徳教育を重視し、偉人伝を通して先人の勇気や忍耐を学び、柔道や空手、茶道や華道といった和文化教育を通じて、挨拶や身だしなみを身につけます。次第に「社会人の素養を教えてくれる」という評判が広がり、卒業生の子どもが続々と入学するようになりました。現



在では、親子や兄弟姉妹で本校OB、また在校生の親兄弟がOBというケースが多い点が、本校の特色になっています。

一人間力形成に向けた取り組みの結果が、現在の評判につながっている。「子どもや兄弟姉妹を通わせたい」というのは、まさに信頼の証です。

そもそも偏差値50が、日本の最も人数の多い層です。この層をきちんと育てなければ、日本の社会は良くなりません。こうした考えから、知・徳・体の調和を目指す「全人教育」を本校の教育の指針として明確にしました。この考えの原点には、私自身の苦い経験があります。30代前半で係長になった時、部下をまったくマネジメントできなかった。転機になったのは『七つの習慣』（スティーヴン・R・コヴィー 著）でした。そこに書かれた最初の習慣「主体性を発揮する」という項目に、大きな気づきを得たのです。すべては自分の責任であり、主体性を発揮しなければ何も変わらない。私自身が変えることで部下との信頼関係を築き、役割を全うすることができました。

製造現場には学生時代の成績が偏差値50、もしくはそれより低い人々が多かった。とは言え、彼らの実践的なスキルはおしなべて高く、職人としてプライドを持って仕事に向き合っていました。それは社会人として立派な姿です。そう実感していたからこそ、平均的日本人の層に向けた「全人教育」に、確信をもって取り組むことができました。

一「全人教育」の実績のもとに、今春、北九州市に小中一貫校・志明館を開校されました。

志明館の開校は、構想から16年がかりでようやく実現し、今春、1年生26名、2年生16名の計42名でスタートしました。独自のカリキュラムで「全人教育」に取り組んでいます。例えば、校庭の遊具も鉄棒・雲梯・昇り棒がある程度で、遊びも子ども自身の創意工夫を重視しています。見守る大人も教員や職員だけでなく、アシスタントティーチャーとして地元のシニアを10名採用し、ものづくりを中心に多面的な教育を行っています。

博多学園の行動指針は『心が志を、志が人成を』です。私たちが考える志とは、単なる目的目標ではなく、社会に貢献したり、誰かの役に立ったり、誰かを幸せにして初めて成り立つもの。利他的でなくては、志とは言えない。目的目標を志へと高めるには、心が育っていないと叶いません。博多学園のあらゆる教育現場が、志を抱くための心を育てる場だと

考えています。志明館に在籍しているのはまだ1・2年生だけで、思春期に入る5年生くらいから、シーズアスリートの皆さんと関わる機会ができるかなと考えています。すでに高校生世代の学びの深さは実感しているので、今後、小学校高学年から中学生の世代が、パラアスリートと触れ合うことでどれほど大きな学びを得るのか、楽しみにしています。

一〴〵誰かを幸せにして初めて、それは志となる。〴〵シーズアスリートメンバーの生き方と、貴校の園児・生徒・学生の皆さんが歩む道には、大きな共通点を感じます。

創立から83年を経て、次の100年後に向けた変革を進めています。日本人は古来、「和をもって貴しとなす」という言葉が示すように、「和」を通じて豊かな社会を築こうとしてきました。しかし、現代社会ではそれが揺らいでいる。あらためて「和」の感性を取り戻すことが、今を生きる私たちの担うべき責務だと感じています。

100年後も、おそらく世界は一つになってはいないでしょう。それでも世界を一つにするため、「和」をもって平和をめざす。本校はそのために、調和を通じて人々を幸せへと導くグローバルリーダーを育てたい。人々に喜びと誇りを感じさせてくれるシーズアスリートの皆さんから得られる多くの学びに、これからも期待しています。



COMPANY's Profile

学校法人 博多学園

法人本部

〒813-0041
福岡県福岡市東区水谷1-21-1

[事業内容]

- ・幼児教育（博多学園幼稚園グループ7園）
- ・小中一貫校（志明館）
- ・高校教育（博多高等学校）
- ・専門教育（博多メディカル専門学校）の運営